

東和作戦会議 速報 No.12

一般社団法人東和作戦会議広報
令和元年 11月27日 発行
一般社団法人東和作戦会議ホームページ
<http://touwa-noutabi.blogspot.jp/>

東和おもしろ学歴史講座 「町井薄衣氏の歴史」開催

令和元年 11月24日(日)9:00～16:30
町井ふるさとセンターおでって～一関市川崎町
参加者 29名、特に薄衣家の地元町井・館
迫・落合から多数の参加を得て開催しました。

《講義内容》

・初代胤堅^{たねかた}奥州拜領のいきさつと、葛丸城との関わり。
・二代宗胤、異母兄弟との確執、奥州に根を下ろし葛西氏と対立・和睦を繰り返しながら力を強めた三代常隆(清村)の活躍。十代将胤(葛西の血筋の婿養子)と十一代常盛との血筋をめぐる争い。千葉氏改め薄衣氏を名乗り始めた十二代常晴。奥州仕置きにより自刃した十三代常憲。伊達反乱軍制圧に乗り出し、捉えられ宮城県唐桑で弟常義とともに処刑された十四代常雄^{つねかつ}について。その子十五代常広が、遠野平野原を経て、町井にたどり着くまでのいきさつ。その他、当時の奥州地域の葛西氏、千葉氏、薄衣氏の勢力関係。懐柔と闘争の歴史や、南北朝時代など中世の歴史を中心に講演が行われました。

繁栄の礎、薄衣家の家訓は家臣を大切にすることだったと最後に締めくくりました。



講師：薄衣照雄氏
初代から数えて 28 代、最後の当主から数えて 14 代当主



薄衣代表理事あいさつ

「この春、発足した東和作戦会議では様々なおもしろ企画を提供。今回は薄衣氏の歴史を学ぶ。ルーツを学び薄衣氏発祥の地川崎町で現地見学を実施予定。これをきっかけに他の企画にも多くのおみなさんに参加していただければありがたい。」

薄衣氏八百年二十八代にわたる当主の苦悩や、家名を守るための策略。時代の変遷を経て、今に残る薄衣氏の歴史は、これからも代々受け継がれていくことでしょう。講座には、講義のみの聴講者 2 名と小学生 2 名も特別参加しました。参加した皆さんは自分に繋がる祖先の歴史に思いをはせているようでした。

花巻市東和町町井から一関市川崎町へ



現地案内者 岩淵正之助さん
今回現地案内をお引き受けいただいた岩淵さんは、薄衣城本丸跡の土地所有者であり、史跡保護のため薄衣城跡保存会会員として活動されています。

昼食会場では、早速岩淵さんから町井薄衣家と川崎村(当時)の関わりや慰霊顕彰碑建立のいきさつなどについてお話を聞きました。



昼食会場「ぬくもり」

杉木立の細い道を 150 メートルほど登った高台に立派な門と古民家が見えてきます。そこがカニバット料理を提供してくれる農家レストラン「ぬくもり」です。

岩手県食の匠の称号を持つ千葉秀子さんは、20 年前からカニバット料理を提供しています。「80 歳になりましたが後継者を育てるために頑張っています。」と話していました。



熱いうちに食べて～



モクズガニの出汁の旨みがたまらない！

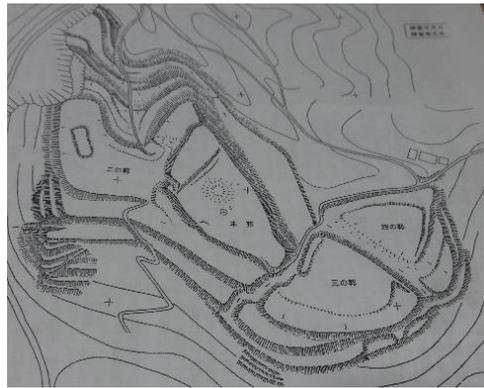
薄衣城主十四代慰霊顕彰碑

薄衣氏の一族である故薄衣佐吉さん（当時東京在住）が薄衣家の歴史を調査中、薄衣氏発祥の地である川崎町（当時川崎村）の方々と交流するうちに顕彰碑建立の話が持ち上がり、奔走した末、平成天皇の大嘗祭が行われた平成2年、薄衣一族を始め全国から浄財を集め「薄衣城主十四代慰霊顕彰碑」が建立されました。建立の際には東和町・川崎村両首長も出席し盛大に建立記念祭が行われたということです。

今回の講座には薄衣家の関係者が多く参加したので顕彰碑に花と線香を供え、薄衣家繁栄を祈念しました。



顕彰碑建立のきっかけをつくった故薄衣佐吉さんの甥、薄衣健さんが代表して線香を手向けました。



顕彰碑のある「米倉山安養寺」の西側に薄衣城の城跡があります。本丸、二の丸、三の丸、四の丸があり、薄衣城はこのほか米倉館、葛丸館、搦手館などの呼び名があります。中世の城郭跡の形状が良好な形で残されている貴重な史跡です。今回はあいにくの小雨模様で、足元

が悪く、上からの眺望も望めないことから散策は断念しましたが、「搦手門」から上れば、約5分で頂部分に到達、北上川や、北上大橋、川崎町の街並みが展望できます。

安養寺では石村幸隆住職の読経のなか参加者が焼香を行いました。

参加者のみなさんからは講義内容も良く、現地研修も興味深かったという感想が多く、東和町内の歴史にさらに興味がわいたという声が多く聞かれました。

